

平成21年度第1回 函館市観光アドバイザー会議 会議録

- 1 日 時 平成21年6月29日(月) 13:30~15:30
- 2 場 所 函館市地域交流まちづくりセンター
- 3 参集者 番匠座長, 星野部会長, 根本部会長, 古川委員, 坂本委員, 吉田委員, 折谷委員, 河内委員, 松原委員, 松木委員, 二本柳委員
(11名出席)
- 4 内 容
 - (1) 開 会
 - (2) 座長挨拶
 - (3) 報告事項
 - ・平成20年度の観光動向について
 - ・平成21年度の観光振興策について
 - (4) 討 議
 - 番匠座長
 - ・事務局から報告された各事業に関して, 各委員からご意見をいただきたいと思うが, まず, コンベンションの推移についてだが, 開催日数は, 1件あたりだいたい何日程度か。
 - ・実績からみると, 函館市に必要なコンベンション施設の規模としては, 500人くらいが適当と思われるがどうか。
 - 事務局
 - ・日数は, おおよそ2日間程度である。
 - ・施設の規模については, 既存施設で対応できるコンベンションが現実に関われているということも想定できるので, さらに議論を深める必要がある。
 - 星野委員
 - ・コンベンション規模の推移は件数を積み重ねているが, 総参加人数で推移を見ることも必要だ。小さな規模も大きい規模も同じ1件としてカウントするのではスケール感がわからないため, 必要な施設規模や今後の誘致などを考える上で, 判断を誤る可能性がある。
 - 古川委員
 - ・市でのコンベンション誘致体制は, 昨年度から職員3人で対応しているが, 費用対効果の点で目に見える実績が求められてくる。また, コンベンション

推進課と観光コンベンション協会の2つの組織がそれぞれどのように棲み分けをしているのかわかりにくい。コンベンションの開催について相談したい場合、どちらに相談したらよいのか、もっと民間の人に向けてわかりやすいように周知に努めて欲しい。

事務局

- ・昨年度、市においてコンベンション推進課を新設し、市が誘致、観光コンベンション協会が受け入れ支援という役割分担をした上で体制を強化し、コンベンション開催実績の向上を目指し取り組みを進めているところだが、さらに観光コンベンション協会との連携を強化するとともに、民間の方々が利用しやすい体制づくりを進めていきたい。

番匠座長

- ・コンベンションを開催する際、主催者側が相談先に迷うような状況はよくないので、よろしくお願ひしたい。

二本柳委員

- ・コンベンションの誘致活動は、5年、10年かかるので、2～3年で担当者がかわるような体制では人的ネットワークを活用した取り組みは難しい。
- ・コンベンション規模実績によると、千人以下のコンベンションがほとんどだが、そもそも函館に千人以上のコンベンションを開催できる場所がないからではないか。
- ・コンベンション施設を検討する上では、固定席が必要なのか展示ホールが必要なのかその形態をまず考えるべきだ。自分としては、展示ホールがあれば3千、4千人のコンベンションも誘致可能であると考えている。
- ・コンベンション開催による経済波及効果が平成9年のデータまでしかないが、コンベンションが重要であると考えているのであれば、最新のデータを整理してほしい。

事務局

- ・経済波及効果の把握は必要であると考えているので、対応していきたい。

番匠座長

- ・展示ホールとして整備するならば、電源など設備が大事であるなど、施設については、様々な要素を含めた検討が必要であるが、現状は、方向性がはっきりしない。
- ・コンベンション施設整備に関して、リーダーシップをとる人材がいない。規模、方向性についても先頭に立って決断し動く人が必要ではないか。

二本柳委員

- ・ 昨年秋に開催された「市民まちづくり大学」のフォーラムにおいて観光圏整備に取りかかろうということが話題になったと思うが、なぜ今年度の認定を受けように進めることができなかったのか。
- ・ 着地型メニューをビジネスとして展開していくためには、観光圏の認定が非常に重要なこととなるので、スピード感を持って対応して欲しい。

事務局

- ・ 観光圏整備法の対象になるためには、飛び地ではなく連単した地域で、かつすべての地域が一体となる必要があるが、各地域間の広域観光に対する意識の違いや渡島・檜山で支庁がまたがっていることもあり、集約に時間がかかった。これまで函館市において、函館市以外の17市町に個別に意向の確認と意見交換を実施してきたが、ようやく認定へ向けての体制が整ってきた。また、同時に渡島・檜山で複数ある広域観光関係の会議・組織を、南北北海道で一つの組織にしようという動きとなっており、平行して作業を進めてきたところである。平成22年度の認定に向けて、鋭意取り組んでいくので皆さんのご協力をお願いしたい。

古川委員

- ・ 各種実証実験は、本来はエージェントが行うべきことではないか。観光客が激減している現状を考えると、行政の役割としては、首都圏や、関西方面などでの観光客誘致宣伝事業にもっと力を入れるべきではないか。
- ・ 今後新幹線新青森開業、新函館開業と、観光客が増える要素があるのでそれを見据えて北関東に向けたキャンペーンが効果的ではないか。
- ・ 観光客がこれだけ減っているのは致命的だ。即効性のある観光戦略を打ち出して、観光客を増やしていくことも重要と思う。

事務局

- ・ 資料は、今年度実施する新規事業の説明資料であるため、誘致宣伝部分の扱いが小さくなっているが、首都圏での広告については、これまで以上に、様々な媒体を使って誘致宣伝事業を行っているのご理解いただきたい。
- ・ 実証実験については、昨年度実施した実証実験をきっかけに、今年度はエージェントが単独で旅行商品化するなど効果も出ており、実証実験による新たな魅力づくりと、誘致宣伝の両方を並行して展開させていきたいと考えている。
- ・ 首都圏エージェントへのプロモーション活動の経験からみると、旅行代理店

側では函館に行くとは何かがあるのかを知りたがっている。昨年度取り組んできた香雪園ライトアップや、はこだてチケットなどの実証実験からはじまった事業が、今のプロモーション活動の材料となっている。「造成」と「宣伝」のサイクルで観光客誘致のための活動を展開していかなければならないと考えている。

河内委員

- ・本来は、旅行会社が地域の隠れた魅力を商品化し、売り出していくのが通常であるが、現状は、旅行代理店自体も厳しくなっているので、売れる定番商品しか扱わなくなっており、新たなものを扱うことに対しては消極的だ。旅行客もリピーター化すると、隠れた魅力に触れる商品を求める傾向があるが、そのような旅行企画を商品化しても、個人客が多く、すぐに観光客が大勢来ると言う状況にはならないし、今の状況に手詰まり感を感じている。
- ・飛行機の便数が減るという原因についてもっと考える必要がある。観光客を誘致することも大事だが、函館から出て行く飛行機に乗客が増えない原因を考えなければならない。航空会社に対して増便の要請をするだけでは無理がある。

番匠座長

- ・観光情報サイト「はこぶら」には、駐車場情報も掲載されているのか。5月の連休の際、金森倉庫の一带に止まっていた他都市のナンバーの車が、駐車違反でつかまっていた。観光に来て駐車違反でつかまったのでは、満足度が下がってしまうので、駐車場情報を充実した方がよいのではないか。

事務局

- ・「はこぶら」では、駐車場情報をお知らせしているが、さらに観光客がわかりやすく、利用しやすい情報発信と、情報を得やすくなるような改善をしていきたい。

根本委員

- ・先日、富良野、美瑛から登別にかけて、3泊4日の旅行をした際に感じたことだが、旅行ターゲットだけではなく、社会全体が女性の視点を重要視している。女性に向けた情報発信など、女性を取り込むことは重要。
- ・函館には、富良野にみられるストーリー性がない。函館イコール夜景という状況を青函連絡船などインパクトのあるできごとによって脱却し、観光客を増やしてきたと思うが、現状はインパクトを与えるようなものがない。
- ・開港150周年記念事業は、短期的なプロセスだけではなく、長期的なプロセ

スで考えると、今後に向けての大きなインパクトになる要素があったかもしれない。自分も実行委員として反省すべき点と考えている。

坂本委員

- ・女性に好まれる視点で戦略を考えることは重要であるが、今の函館観光を考えた場合に女性を意識した視点はあまり見えない。函館に行くと何があるのか、何ができるのか、現状ではうまく伝わりきれていないと感じる。

折谷委員

- ・観光アドバイザー会議として、観光基本計画には、多彩なコンテンツが盛り込まれているのだから、その目標に向かって、あるいは新幹線開業に向けて、ターゲットをどこにするのか、戦略やビジョンを含めた具体的な意見を出していくことも必要だろう。

松原委員

- ・今あるコンテンツが飽きられているのではないか。時代の流れで、エコが重要な要素となっているが、夜景からの脱却ということも含めて、コンテンツを考えていった方が良い。
- ・函館市民が、他都市に観光旅行に行くようなPRも重要ではないか。他都市の状況を見てホスピタリティの精神を学ぶことは、長期的に見た場合、函館への観光客を増やすことにつながる。

松木委員

- ・函館の魅力として夜景はやはり重要な要素である。エコが重要な要素であるのは事実だが、夜景を全否定するのではなく、函館の観光ブランドである夜景を活用しながら、ストーリー性の要素を加えるなどして、あるものを活かすことも重要である。
- ・コンベンション誘致は、人を呼び込むのにとっても大きなことであり、潜在的にポテンシャルが高い函館が、受け入れられる施設がない、設備が足りないということが原因で、コンベンションの受け入れが伸びていかないというのは非常に残念なこと。市が率先して多様なコンベンション施設を作る動きをとるべきだと思う。

星野委員

- ・観光客が大きく落ち込み、函館が今何をするか考える時に、観光に関するマイナス面を一つずつ減らしていくことが大事ではないか。リピーターは口コミを重要視し、ブログなどで情報を得ることが多くなっているが、ホテルや観光施設などにおける、悪い口コミ情報の流れる速度も速

いので、早くマイナスな面を減らすような努力をしなければならない。

- ・外国人に対応するネット環境の向上が必要であるが、函館だけではなく日本全体で外国人対応が遅れている。外国人が自分の国でできることを、旅行先でできないということは、それだけでマイナスイメージを持たれる。
- ・函館空港のタクシーの待合だが、乗り場には中型車しかいなく、小型車は呼ばなければならない。少人数のため小型車で十分な人達には、案内が不親切であり、結果的に中型車を利用したことで、観光客に対して悪印象を与える場合がある。
- ・先日、チャチャ登り坂が、工事で通行できなくなった際、その情報が十分に周知されていなかった。細かな対応がないことで、観光客が印象を悪くするということを考えて、マイナス要素を減らす努力をしてほしい。

番匠座長

- ・一通り、各委員の皆さんからご意見を頂いたところで、本日の会議はこれで終了したい。大変ありがとうございました。

事務局

- ・11月に委員の任期が満了となることから、その前に委員の皆様と個別にご意向等の話をさせていただくのでよろしくお願ひしたい。次回は、任期満了前に開催する予定であり、別途ご連絡させて頂く。
- ・本日は、長時間にわたりありがとうございました。

(会議終了)